

三一五一番

よそのみに 君を相見て 木綿畳 手向の山を
あすこい 明日か越え去なむ

三一五二番

玉かつま 安倍島山の 夕露に 旅寝えせめや
ながよ 長きこの夜を

三一五三番

み雪降る 越の大山 行き過ぎて いづれの日に
か わが里を見む

三一五四番

いで我が駒 早く行きこそ 真土山 待つらむ妹
を 行きてはや見む